

2021年5月期 第3四半期

決算説明資料

—— 企業のIT支援を通し、人々、社会を幸せにしたい ——



株式会社パシフィックネット

2021年4月13日

2021年5月期・第3四半期（6～2月）サマリー

Q3 連結業績

四半期・累計とも、過去最高を更新

- ・コロナ禍のマイナス影響を受けたが、**四半期(※)、第3四半期累計とも過去最高に**
(※)第3四半期は、営業利益・経常利益で過去最高を更新。売上高・純利益は第2四半期にわずかに届かず
- ・今期は、第1～3の**全四半期で、過去最高を更新**

通期予想

業績予想を上方修正

- ・第4四半期も、売上高・各利益で**過去最高を更新する可能性が高い**
- ・ただし、コロナ禍拡大による不確実性から、**保守的に見積もり**

配当予想

配当予想も増配へ

- ・期初予想の23円から、29円へ修正
- ・4期連続での増配

連結業績 第3四半期累計（6～2月）

過去最高を更新

- ・ コロナ禍による影響、投資拡大によるコスト先行を、ストック拡大、フロー収益性向上でカバー
- ・ 第3四半期は、営業利益・経常利益において、**四半期で過去最高益**に
 ※ただし、第2四半期は、特別賞与の支給等により約36百万円の追加費用の計上あり
- ・ この結果、今期は、**第3までの全ての四半期で、過去最高を更新**

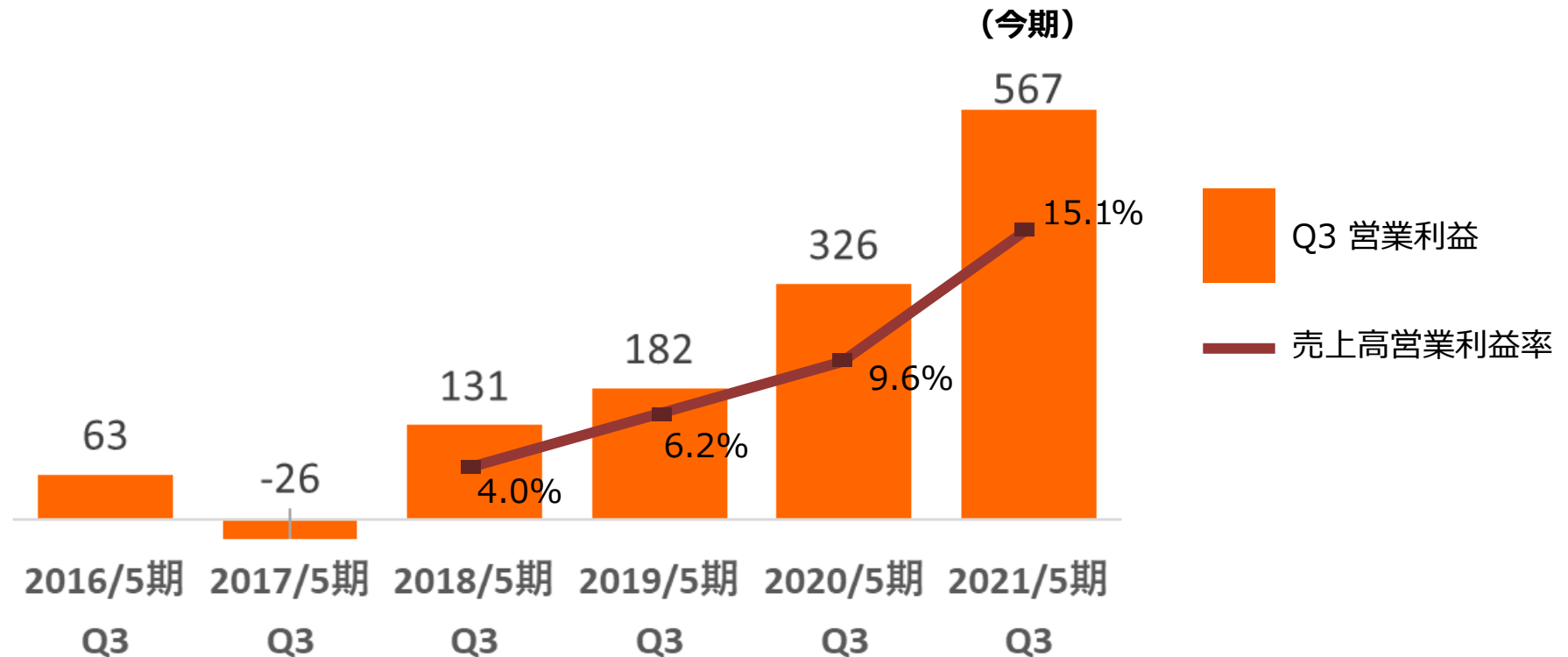
（単位：百万円）

	2020年5月期 第3四半期	2021年5月期 第3四半期	前期比 増減率	(期初) 通期予想	期初予想比 進捗率
売上高	3,390	3,753	10.7%	5,000	75.1%
営業利益	326	567	73.9%	500	113.5%
売上高営業利益率	9.6%	15.1%	+5.5ポイント	10%	—
経常利益	323	565	75.1%	500	113.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	224	373	66.4%	330	113.1%
EBITDA	1,029	1,525	48.1%	—	—

営業利益の推移 第3四半期累計（6月～2月）

4期連続で営業増益、営業利益率も4期連続で向上

第3四半期累計・営業利益の推移（百万円）

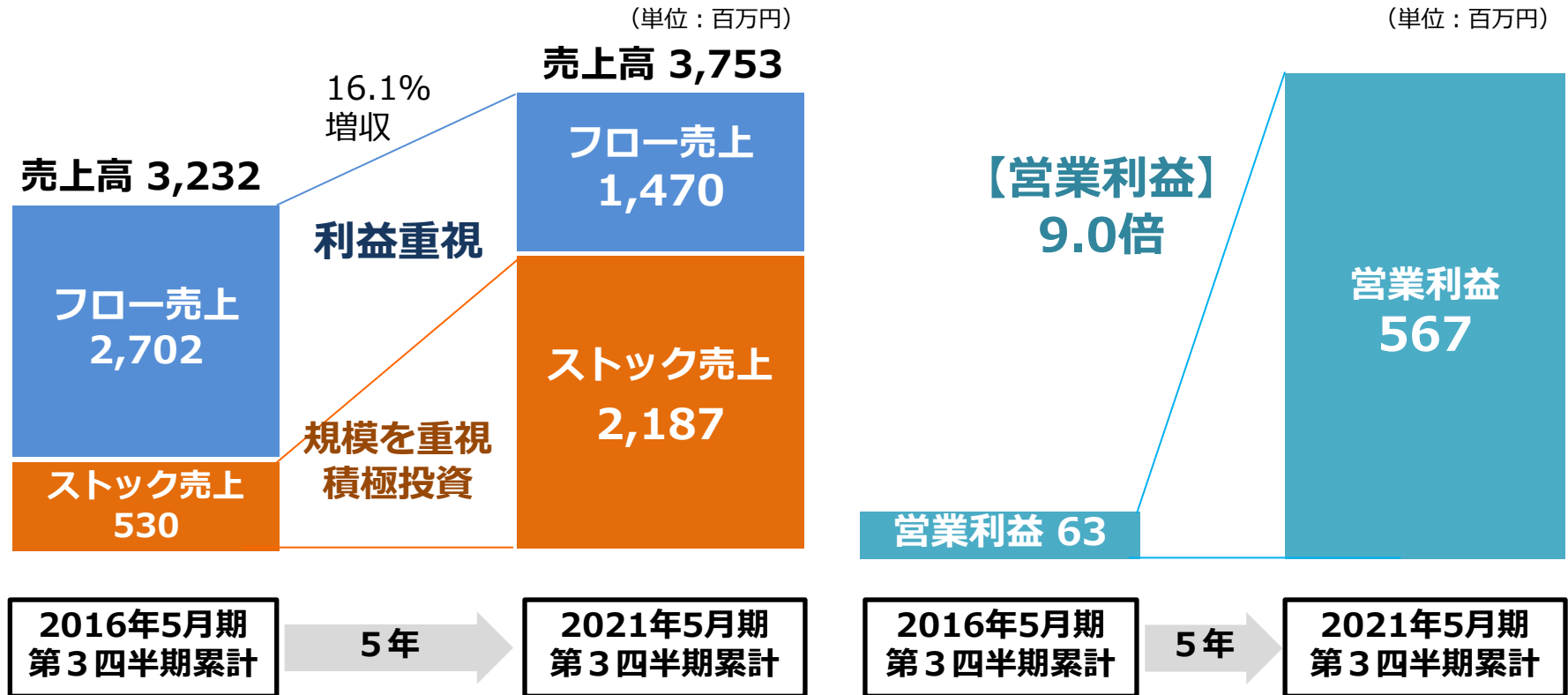


事業構造改革の成果（5期前との比較）①概況

事業構造が一変し、収益性が大幅に向上

- ストックは売上高4.1倍・利益6.8倍
- フローは売上高△46%だが、利益は大幅増益
- 社内DXで生産性も大幅に向上

注・ストック：ITサブスクリプション事業（一部フロー含む）
 ・フロー：ITAD事業、コミュニケーション・デバイス事業



事業構造改革の成果（5期前との比較）②収益性、効率性

収益性・財務効率も大幅に向上

前中計初年度 現中計最終年度

カテゴリ	経営課題	経営指標		2016/5期	2021/5期	増減率
				第3四半期	第3四半期	
全社	収益構造改革	売上高	百万円	3,232	3,753	16.1%
		営業利益	百万円	63	567	○ 800.2%
		売上高営業利益率	%	1.9%	15.1%	○ +13 ^ポ イント
		通期換算ROE	%	4.3%	22.9%	○ +19 ^ポ イント
		EBITDA	百万円	378	1,525	○ 303.2%
		EBITDAマージン	%	11.7%	40.6%	○ +29 ^ポ イント
ストック収益 (ITサブスク)	規模の拡大	売上高	百万円	530	2,187	○ 312.7%
		セグメント利益	百万円	58	400	○ 581.2%
		売上高セグメント利益率	%	11.1%	18.3%	○ +7 ^ポ イント
		レンタル資産	百万円	1,488	4,936	○ 231.7%
フロー収益 (ITAD)	規模よりも 利益の向上	売上高	百万円	2,702	1,470	-45.6%
		セグメント利益	百万円	4	523	○ 12192.9%
		売上高セグメント利益率	%	0.2%	35.6%	○ +35 ^ポ イント
		BS商品在庫	百万円	711	70	○ -90.2%
		在庫回転期間	月数	3.8か月	0.5か月	○ △3.3か月

※通期換算ROE …第3四半期ROEを4/3倍することで通期に換算

※連結営業利益とセグメント利益合計の差は、セグメントに配賦できない全社費用（主に管理部門）があるため

※EBITDA…営業利益+減価償却費+償却費で算出、EBITDAマージン…EBITDA÷売上高

※レンタル資産は、取得価格で表示（簿価ではない）

※在庫回転期間…第3四半期末BS商品在庫(ITAD)÷第3四半期の月平均商品仕入原価(ITAD)で算出

セグメント情報 第3四半期累計（6～2月実績）

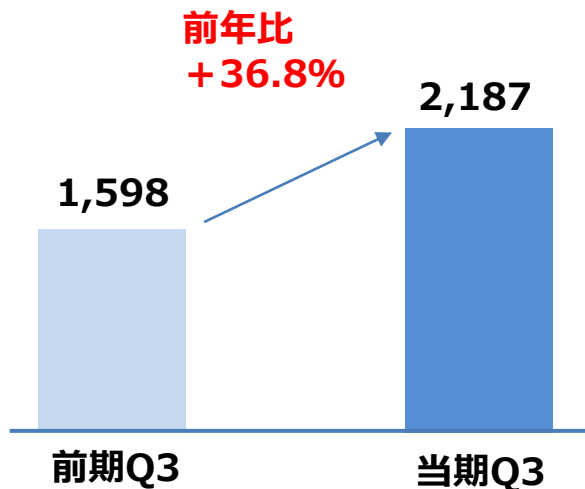
ITサブスクリプション事業

- ・法人・官公庁向け 情報機器のサブスクリプション（中長期レンタル）での提供
- ・運用保守・通信・クラウド等のITサービス

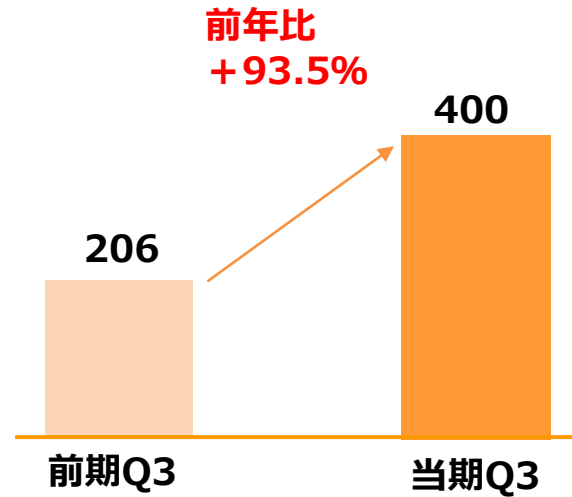
前年比で売上高1.4倍、利益は約2倍に

- 成長投資を継続（レンタル資産・IT人材・DX）
- コロナ禍の影響で中長期サブスクの受注ペースは緩やかだが、短期レンタルは好調
- 半導体不足・世界的なPC納期遅延の影響は軽微

売上高（百万円）



セグメント利益（百万円）



セグメント情報 第3四半期累計（6～2月実績）

ITサブスクリプション事業

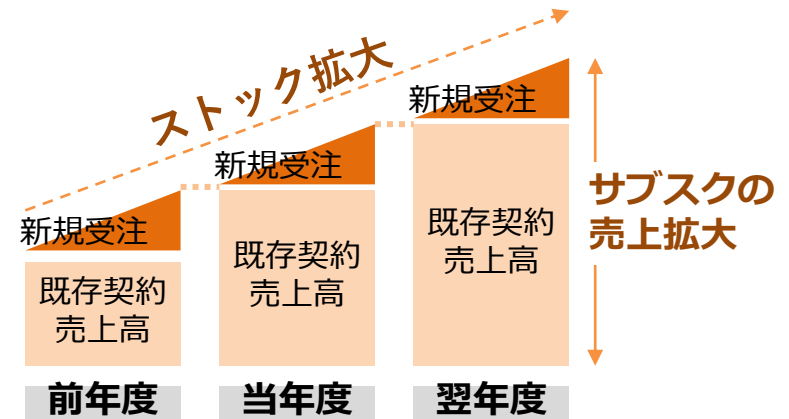
当事業の拡大を最重要課題とする理由

① 成長率が高く、市場規模も大きい（中長期レンタル、ITサービス）

- ・ PCの中長期レンタルは拡大中だが、未だ国内法人PCの10%弱と想定され、大きな潜在市場が存在（国内の法人等のPC保有台数3,600万台に対し、レンタルでの利用台数は現時点で200万台前後と想定）
- ・ クラウド、情シス業務の外部委託も、成長率が高く、市場規模も大きい

② 持続的成長が可能に

- ・ 中長期レンタルの途中解約率は極めて低い
- ・ 受注拡大はストック積上げ(将来収益)に



③ ITAD事業の収益へ寄与

- ・ レンタル終了品は、優良な中古情報機器



レンタル拡大 → 数年後のITAD収益拡大

セグメント情報 第3四半期累計（6～2月実績）

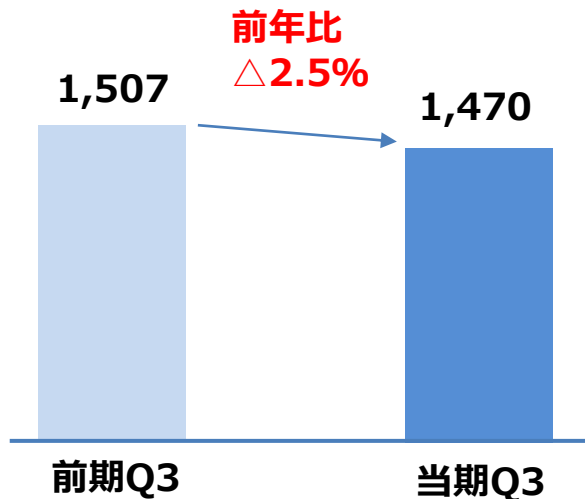
ITAD事業

- ・使用済みIT機器のセキュアな回収、データ消去
- ・リユース・リサイクル販売、適正処分

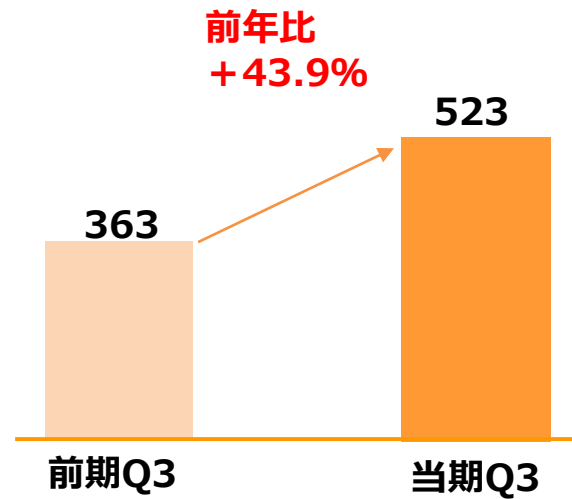
売上高微減だが、利益は拡大

- コロナ禍や、法人向け新品PC出荷台数の減少で、使用済みPC排出台数が減少
その結果、売上高は減収
- 好調なデータ消去需要、社内DX等による業務効率化により収益性は向上
リユース・リサイクル品の単価上昇も相まって、利益は拡大

売上高（百万円）



セグメント利益（百万円）



セグメント情報 第3四半期累計（6～2月実績）

コミュニケーション・デバイス事業

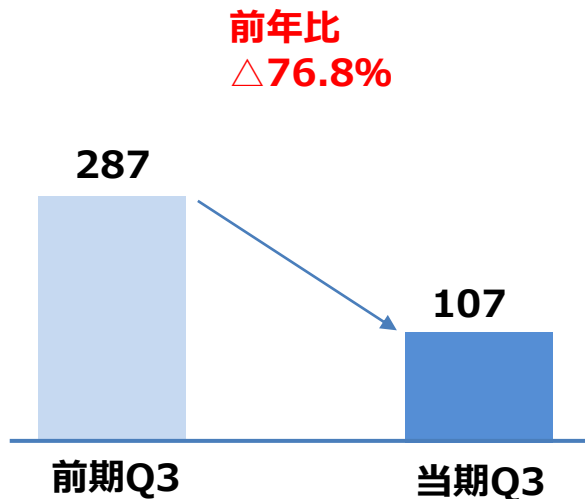
・イヤホンガイド®の製造販売、レンタル、保守・メンテナンスサービス

観光の打撃大きいのが、売上は確保

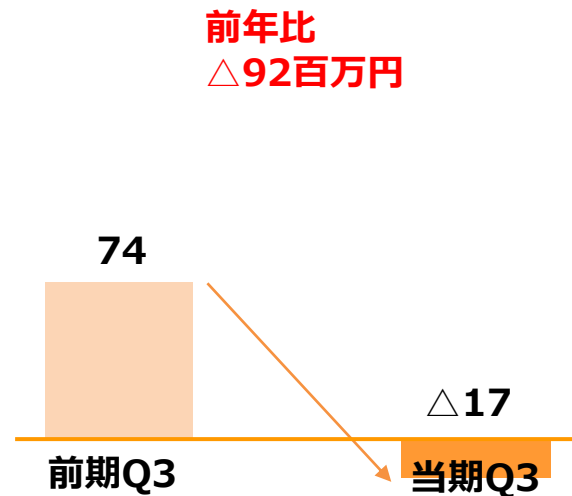
- 連結業績に与える影響は限定的
- withコロナや三密回避ツールとしての受注で売上高は確保
- 日本旅行業協会によるガイドライン化（※）で、旅行業界からの問い合わせは依然増加
国内ツアーでの活用で、新たな市場創造

※日本旅行業協会ガイドライン・・・「観光ツアーにはガイドレシーバーを付帯すること」

売上高（百万円）



セグメント利益（百万円）



通期の業績予想を上方修正

- 現時点では、**第4四半期も第3四半期を上回り、過去最高を更新**する見通し
 - ・コスト・・・増加。戦略投資等の拡大による（人材確保、社内ITシステム、プロモーション、役職員分配等）
 - ・業績・・・拡大ペース>投資等によるコスト増であり、四半期での最高を更新する可能性が高い
- ただし、コロナ禍の不確実性が高まっており、**保守的に見積もって業績予想を修正**

(注) コロナ感染拡大は、フロー売上減少につながり、短期業績としてはプラスよりマイナス影響の方が大きい

(単位：百万円)

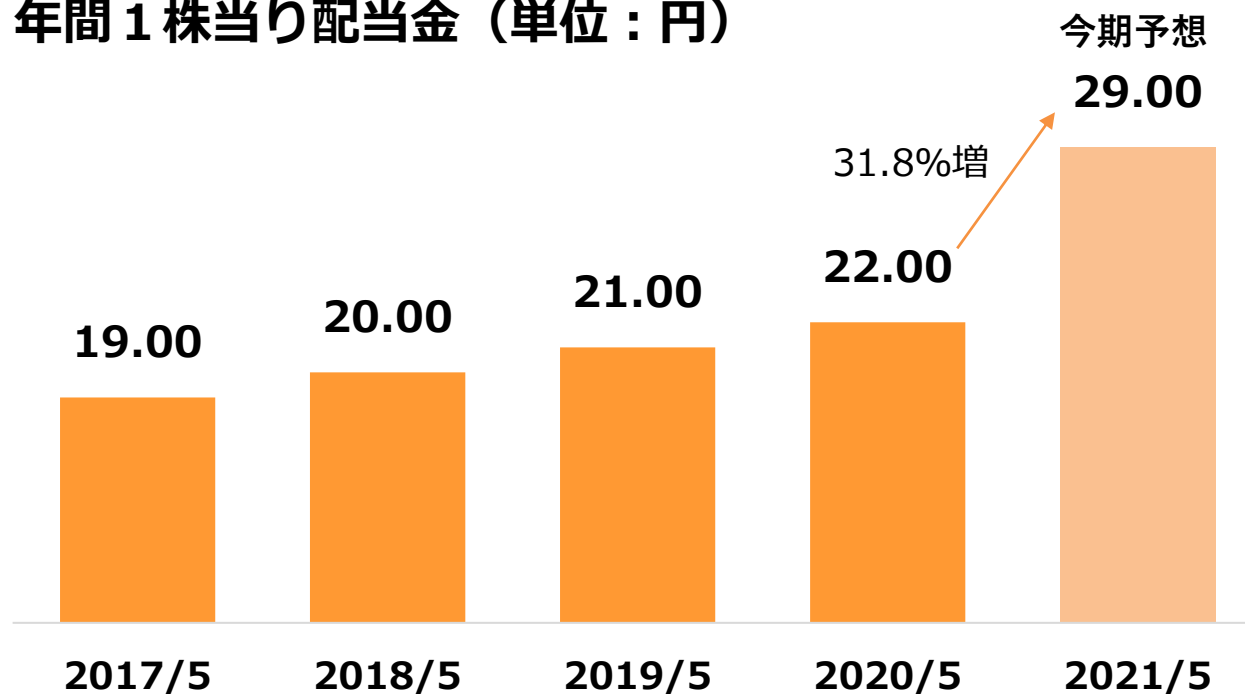
	期初予想	修正予想	増減率	前期実績	増減率
売上高	5,000	5,200	4.0%	4,566	13.9%
営業利益	500	760	52.0%	413	83.6%
売上高営業利益率	10.0%	14.6%	+4.6ポイント	9.1%	+5.5ポイント
経常利益	500	760	52.0%	408	86.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	330	500	51.5%	289	72.7%
1株当り当期純利益	65.17円	99.24円	—	57.16円	—

配当予想の修正（増配）について

配当予想を修正（増配）

- 配当方針（次ページ）に基づき、期初予想の**23円**から、**29円へ増配を予想**
（連結配当性向 **30%**、DOE **6.0%** に相当）
- 前期比では**7円増額（31.8%増）**、**4期連続増配**

年間1株当たり配当金（単位：円）



当社の配当方針について

配当方針

- 当社経営方針は「**中長期的な安定成長**」であり、株主への利益還元も安定拡大を目標としております。
- さらに、当社の事業は「**直接的なESG支援**」となる事業特性を有しています。

事業拡大を通じて社会的価値を創造し、その成果を株主・役職員・社会・会社で分かち合うことにより、**各ステークホルダーとの関係を強め、企業価値の持続的な向上**を目指すこととし、具体的な配当方針を次の通りとしております。

配当方針	配当性向30%以上、かつ純資産配当率（DOE）5%以上を目標とする
------	-----------------------------------

注1：配当性向

その期の純利益(税引後利益)から、配当をどのくらい支払っているかをパーセンテージで表したものの。

■ 純利益×配当性向 = 配当総額となる。

注2：純資産配当率（DOE）

企業が株主資本に対してどの程度の配当を支払っているかを示す指標。真の配当性向とも呼ばれる。

■ 純資産配当率(DOE) = 配当性向×自己資本利益率(ROE)×100% = 年間配当総額／純資産×100%

(参考) ESGへの取り組み

各事業そのものが ESGの直接支援であり、社会的使命として推進

共有経済
&
循環型経済

E
Environment : 環境

S
Social : 社会

G
Governance : 企業統治

ITサブスクリプション
情報機器サブスクリプション(以外)
運用管理・通信・クラウドサービス

シェアリング
エコノミー

E
・レンタル
・終了後はリユース

S
・働き方改革の支援
・DX支援

G
・情報漏えい防止

ITAD
使用済み情報機器のデータ消去
リユース・リサイクル
排出に関するコンプライアンス

サーキュラー
エコノミー

E
・リユース・リサイクル
・使用済み機器の適正処理

G
・情報漏えい防止
・使用済み機器の適正処理

**コミュニケーション・
デバイス**
イヤホンガイド製造・販売・以外

S
・三密回避ツールの提供

(参考) 中期経営計画 SHIFT 2021

SHIFT 2021 (2019年5月期～2021年5月期)

基本方針

- ① ストック中心へ、さらなる収益構造改革
- ② M&Aによる成長のスピードアップ
- ③ グループ全体の連携強化
- ④ 東証第一部または(新)プライム市場へのステップアップを可能とする収益構造・経営基盤の構築



働き方改革/モバイルワークソリューション
デバイス+通信+各種サービスを「まるっと」ご提供

Marutto365[®]
Device as a Service



(参考) 東京テクニカルセンター コロナ感染防止策について

サーモグラフィーカメラ



高感度サーモグラフィーカメラによる
全従業員の出勤時体温計測

密にならない広い空間



館内天井高5.5m 総面積3,213㎡
総従業員110名

24時間換気システム



産業用有圧換気扇6基で強力換気
約2時間で全ての空気を入れ替え

ソーシャルディスタンス



作業エリアでは、
ソーシャルディスタンスを確保

出荷商品の消毒



お客様へ出荷する商品は入念に消毒

備品・設備の消毒



共通端末、ドアハンドル、ビジネスフォン等を毎日2回消毒

会社概要

- 設 立： 1988年 7月
- 本 社： 東京都港区芝5-20-14
- 代表者： 代表取締役社長 上田満弘
- 事 業： ITサブスクリプション事業
ITAD事業
コミュニケーション・デバイス事業

- 売上高： 4,566百万円 (連結、2020年5月期)
- 従業員： 243人 (連結、パート社員含む、2020年5月31日現在)
- 市 場： 東証第二部 (証券コード3021)

IRに関するお問い合わせ

IR担当

部署： 経営企画室

氏名： 取締役副社長 大江 正巳

経営企画室長 高島 律夫

Tel : 03-5730-1441

E-mail : ir@prins.co.jp



•将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。